

# 旭川だいいち保育園 令和5年度 運営方針 及び 事業計画書（案）

## 基本テーマ

### 保育理念の原点

1. 「行事の大切さ」
2. 「職員全体がおなじ方向性に向かって保育していきたい」

## 令和5年度 運営方針

### 「保育理念の原点回帰」

コロナウイルス感染症から約3年、ようやく2類から5類に移行された事にもとない期待と不安があります。

その中でどのような運営方針を立てていけば良いのか考えました。

結果、当園の保育理念でもあります

【一人ひとりの子どもの立場や想いを第一に考え  
こども達がよりよく生きていけるようお願い努めます。】

の原点に戻り、子供の人権を大切に、また社会性のルールなど、職員  
共通認識のもと保育の質の向上に取り組みます。

## 運営方針に向かって 事業計画

### 1. 「行事の大切さ」

コロナ禍で、行事が縮小したり、中止せざるを得なかった事など  
大変残念な3年間でした。その中で今年度においては、みんなと楽  
しめる行事が行えるよう職員全体で考えていきたいと思ひます。

### 2. 「職員全体がおなじ方向性に向かって保育していきたい。」

職員同士の話し合いの場を設け、意見交換をして、より良い職  
場環境を作って行きたいと思ひます。そのためには、分からない  
事や、不安を抱いたままにせず、一つひとつの不安を解消し、話  
し合える雰囲気をつくり上げ、職員同士の共通理解につなげてい  
くことが保育の質の向上にもつながっていくのだと思ひます。

# 中央乳児保育園 令和5年度 運営方針 及び 事業計画書（案）

## 基本テーマ

### 子どもをまん中にした保育

1. 「こんなところが面白い～  
保育の幸せエピソード」
2. 「情報を共有する～園内研修」

## 令和5年度 運営方針

### 「子どもをまん中にした保育」

2023年に「こども家庭庁」が設置されることになりました。そのスローガンは「こどもまんなか社会」の実現です。

子どもを「真ん中」にするというのは、一人ひとりのそのらしさを「真ん中」にするということで「こどもの声を聴く」ということが大きなテーマです。それには、子どもが実際に発する言葉だけでなく、言葉にならない言葉、心のメッセージがどこにあるのかということを見極める必要があります。

また、子どもたちは、決して無能な存在ではなく、いろいろなことを考え、理解し、自分なりにさまざまなことにトライし、他者に対して気遣いさえする「一人の人」であり、赤ちゃんのときから主体者であるという権利を主張できる存在です。それを認めることに意義があります。目の前の子どもにいつも敬意を持って接しているか、子どもの発言や行動に対して心から感嘆できるかどうか重要です。赤ちゃんを人として尊重する声かけに対して、赤ちゃんも人として応じるという対話的な関係性ができていくと考えます。

〇歳児はこうすべき、ではなく目の前の「この子はどうしたいのか」あるいは「どうされたいのか」という声を聴き、一人ひとりの心の声に応じることは、言い換えれば多様性に応じるということです。

子どもに一番近い保育の現場で、私たちは改めて「子どもをまん中にする」ということを見つめ直し、一年間の保育に取り組みます。

## 運営方針に向かって 事業計画

### 1. 「こんなところが面白い～保育の幸せエピソード」

保育者の専門性のひとつは、日々の子どもの関りの中からいかに喜びを見出していかであり、子どもと同様に大人も「面白ければ学ぶ」に繋がると考えます。「楽しむ力」こそ成長の源であるという考えから、保育を面白いと思える空気を園全体に広げていくことを目的として、『保育者が子どもの気持ちを探って働き掛けたことで、子どもの心が動いた』エピソードを「幸せエピソード」とし、職員間で語り合うことを実践します。

### 2. 「情報を共有する～園内研修」

職員が外部研修で学んだことや園内でのエピソードをもとにロールプレイングを取り入れた園内研修を行い、乳児理解を深めると共に「子どもをまん中にした保育」について、園全体での共通理解を図ります。

# 旭川すばる保育園 令和5年度 運営方針 及び 事業計画書（案）

## 令和5年度 運営方針

### 「ポストコロナの保育の探求」

コロナウィルス感染症の流行に伴い、この3年間は保育の方法に大きな制約を受け続けてきました。

5月からは、コロナもインフルエンザ等と同じ5類のカテゴリーとなり、制約は大きく緩和される見通しです。

とはいえ、コロナの脅威が完全になくなったわけではなく、コロナ以前と全く同じ形で保育ができるとは考えられません。緩和された中でどのような形で保育を進めて行くか、今年度はそれを模索しながら進めて行く年になると考えています。

現状ではやはり感染症対策は優先課題です。そこは押さえながら、過去三年間実施できなかった行事など、どこまでできるか、形を変えて実施したり、時代に合わせた新しい形の行事を実施したりすることを考えて行きます。

#### 基本テーマ

#### ポストコロナの 保育の探求

1. 行事の新しいあり方の探求

2. コロナ下の保育の検証

## 運営方針に向かって 事業計画

### 1. 行事の新しいあり方の探求

昨年度までは、過去に実施していたような行事は中止したり、規模を縮小して実施するなどしていましたが、保育の中で園行事はやはり重要な要素です。とはいえ、密を避けながら運動会などを実施することは、当園の規模では難しいため、今年度は6月をめどに新しい行事を実施します。当園の規模に合った動線の取り方、時間の取り方など工夫してポストコロナの行事のあり方を考えていきます。

### 2. コロナ下の保育の検証

過去3年間、保育者は当たり前のように常時マスクを着用して保育にあたってきました。これが子どもたちにとって、大人の表情がわかりにくくなり、口元が見えないことで言語・発音の成長に影響が出るのではないかと指摘は当初からありました。このようなコロナ下でのやり方が子どもたちにどのように影響してきたか、少しでも検証していきたいと考えます。